【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年3月22日(2023.3.22)

【国際公開番号】WO2022/009566
【出願番号】特願2022-534952(P2022-534952)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｍ 25/00(2006.01)
Ａ６１Ｍ 25/092(2006.01)
Ａ６１Ｂ 18/12(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ 25/00 ６２２
Ａ６１Ｍ 25/0925００
Ａ６１Ｍ 25/00 ６２４
Ａ６１Ｂ 18/12

【手続補正書】
【提出日】令和3年10月13日(2021.10.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遠位端と近位端とを有し、長手方向に延在する内腔を有するシャフトと、
遠位端と近位端とを有し、遠位端部が前記シャフトの遠位端部に固定されており、前記近位端が前記シャフトの近位端部まで延在している１つ以上のワイヤーと、
遠位端と近位端とを有し、前記シャフトの内腔において前記長手方向に延在する内腔を有し、前記ワイヤーが前記内腔に配置されているコイルと、
遠位端と近位端とを有し、前記シャフトの内腔において前記長手方向に延在している板バネであって、前記板バネの近位端部が前記コイルの遠位端部に固定されている第１接続部と、前記板バネの遠位端部が前記シャフトの遠位端部に固定されている第２接続部とを有している板バネと、
遠位端と近位端とを有し、前記シャフトの内腔において前記長手方向に延在する内腔を有するカバーチューブであって、前記内腔内に前記第１接続部を含む前記コイルの遠位部、前記ワイヤー、及び前記板バネが配置されており、前記カバーチューブの前記近位端は前記コイルの前記近位端よりも遠位側に配置されているカバーチューブと、を有しており、
前記コイルは、前記カバーチューブの近位端よりも近位側で前記シャフトと固定されている固定部を有しており、前記長手方向において、前記固定部の遠位端と前記カバーチューブの近位端は離隔しており、前記固定部の遠位端から前記カバーチューブの前記近位端までの長さは、前記コイルの２０巻き分以下であるカテーテル。
【請求項２】
前記カバーチューブの前記内腔の一部は、前記コイルの外側に当接している請求項１に記載のカテーテル。
【請求項３】
前記長手方向において、前記固定部の遠位端から前記コイルの前記遠位端までの長さは、前記板バネの長さの１／３以上である請求項１又は２に記載のカテーテル。
【請求項４】

前記長手方向において、前記固定部の遠位端から前記コイルの前記遠位端までの長さは、前記板バネの長さの２倍以下である請求項１～３のいずれか一項に記載のカテーテル。

【請求項５】

前記カバーチューブは前記シャフトと固定されていない請求項１～４のいずれか一項に記載のカテーテル。

【請求項６】

前記カバーチューブの前記長手方向の長さは前記板バネの前記長手方向の長さよりも長い請求項１～５のいずれか一項に記載のカテーテル。

【請求項７】

前記カバーチューブは、前記第２接続部まで延在しており、前記カバーチューブが前記ワイヤー及び前記板バネをカバーすることにより、前記シャフト内腔に前記板バネ及び前記ワイヤーが露出していない請求項１～６のいずれか一項に記載のカテーテル。